

**製品名: セプラーゼウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17735**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	90kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FAP
別名	FAP; Seprase; 170 kDa melanoma membrane-bound gelatinase; Fibroblast activation protein alpha; Integral membrane serine protease
遺伝子 ID	2191.0
SwissProt ID	Q12884
免疫原	抗血清はヒト FAP-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

**背景**

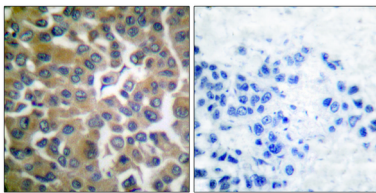
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリンプロテアーゼファミリーに属するホモ二量体膜内在性ゼラチナーゼである。

上皮癌の反応性間質線維芽細胞、治癒過程の創傷肉芽組織、および骨軟部肉腫の悪性細胞において選択的に発現する。このタンパク質は、発生、組織修復、および上皮癌の発生過程における線維芽細胞の増殖または上皮間葉系相互作用の制御に関与すると考えられている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2014年4月]、触媒活性：ゼラチンおよび熱変性したI型およびIV型コラーゲンを分解するが、天然のI型およびIV型コラーゲンは分解しない。ラミニン、フィブロネクチン、フィブリン、カゼインを切断しない。機能：発生および創傷治癒における組織リモデリングに関与し、悪性癌の浸潤性に寄与する可能性がある。誘導：線維芽細胞において、発生、組織修復、および発癌における組織リモデリングの時期および部位において発現する。PTM：N-グリコシル化されている。PTM：N末端はブロックされている可能性がある。類似性：ペプチダーゼS9Bファミリーに属する。細胞内局在：細胞表面のラメリポディア、インベイドポディア、および脱落小胞に認められる。サブユニット：ホモダイマー、またはDPP4とのヘテロダイマー。モノマーは不活性である。組織特異性：線維芽細胞特異的。

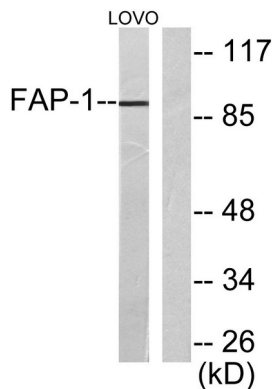
## 研究分野

細胞生物学

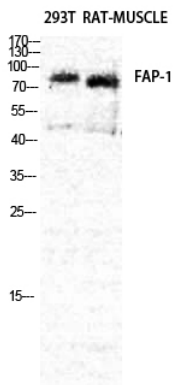
## 画像データ



FAP-1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



FAP-1抗体を用いたLOVO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000希釈のSepraseポリクローナル抗体を用いたRAT-MUSCLE 293T細胞のウェスタンブロット解析

セプラーゼ抗体を用いた 3T3 マウス腎臓 293T 溶解液のウェスタンブロット解析。抗体は 1:2000 に希釈した。

